

思い出の食事について書こう！

-自分の思いを的確に述べる-

- 1 科目名 国語総合（現代文）
- 2 単元名 小説Ⅰ
- 3 教材名 三浦哲郎「とんかつ」
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くことができる。（書く能力）
- イ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすることができる。（読む能力）
- ウ 限られた情報の中で自分を表現することの楽しさを感じようとしている。（関心・意欲・態度）

②単元の目標設定の理由

- ・対象となる生徒たちは、急激に発展を続ける情報社会に生きている。しかしその実、自分が発信する情報が及ぼす影響や余波についてまで考えが至らず、思いがけず不利益を被ったり他者を傷つけたりしてしまうことが多い。また、他者が発信する情報に対しても、正しく読解することが苦手なため、誤解して一方的に傷ついたり怒ったりしていることがある。自分の気持ちを相手に的確に伝えたり、相手の発言を過不足なく読解したりする技術は今後も重要性を増していくものと思われる。そのために今回は、小説の読解後に、その内容を踏まえた上で、自分の思いを書く機会を設けることを考えた。既に日常生活の中で経験していることではあるが、今回は生活に直結している「食べること」をテーマとし、「思い出の食事」、又は「思い出の料理」について書くことにした。「伝えあうことの喜び」を少しでも感じてほしいと願い、このように設定した。

③中心となる学習活動

- ・まず、参考教材となる小説を読解し、この作品の中では食事の場面にどのような効果があるかを確認する。その後、自分自身の経験と照らし合わせて、自分にとっての思い出の食事、又は料理について800字程度のエッセイを書く。
- ・エッセイができあがったら、クラスの生徒と作品を見せ合い、感想を付箋に書いて残す。付箋には、「良いと思ったところ、自分の作品に取り入れたいと思ったところ」「改善するとよりよくなると思うところ」の2つの観点からコメントを残すようにする。最後に自分の作品に貼られた付箋のコメントを読み返し、再度自分の作品を読み返して、自分の伝えたい思いが過不足なく、誤解なく伝わったかどうかを確認する。また、他者の作品から学んだ優れた表現を、自分の作品に反映させ、作品を完成させる。

④言語活動の工夫

- ・高等学校の授業では、自分自身の感情や思いを表現し、発表する機会が非常に少ないと思われる。しかし、現在の高校生は、友人同士においてSNS等を活用した、限られた範囲での意見の交流は頻繁に行っている。そのため、いざ授業内で意見を問うと、その場にはふさわしくない言葉遣いや、一部の生徒にしか伝わらない表現を用いて答えてしまう生徒も少なくない。今回の授業では練習として、気心の知れた友人や家族などの限られた範囲ではなく、ある程度の心理的隔たりのある他者にも適切に自分の思いを伝えることを目標にして文章を書くようにすることも一つの課題とした。自分の伝えたいことを限られた字数の中で過不足なく、かつ誤解なく伝えるには、必然的に使う言葉に対して慎重にならざるを得ない。自分の知っている語彙の範疇で表現できない場合は、友人や教員に尋ねる等して、語彙数を増やすことも相乗効果として期待した。高等学校の膨大な学習内容から考えれば、このような内容の授業を複数回実施することはなかなか難しいかもしれないが、さまざまな方法で思いを表現する機会を教員が意識的に設けて、その都度充分な準備期間や振り返りの時間を取ることは、生徒のこれからの適切なコミュニケーションの育成に大変重要であると思われる。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
書く能力	①自分の思いを相手に	机間指導	・まず、自分がどんな感情について

		誤解がないように適切に表現することができる。	ワークシート 作品	書きたいかを明確にできるよう、小さな質問を繰り返しながら生徒に意識させる。
	読む能力	①他者の作品を読んで相手の思いを過不足なく受け止め、素晴らしい表現を価値付けることができる。	机間指導 全体の評価 付箋	・自分の作品に取り入れたいところはないか、自分の作品と比べてどうかを何人かの作品を読ませて考えさせる。
	関心 ・ 意欲 ・ 態度	①800字以内という字数の中で、自分の感情に適したさまざまな表現を積極的に考えることができる。	机間指導 発言 付箋のコメント	・同じ意味、似たような意味をもつ熟語、慣用句、ことわざなどはないかを考えさせる。
成果と課題	思った以上に生徒の取組が前向きで、生徒が積極的であったことは、本校の生徒にとっては大きな成果であった。また、単に自他の作品を読み合って終わり、ではなく、付箋の中に書ききれぬ短い文章とはいえ感想を書いて残すというやり方は、書き手、読み手両方にとって、自分の言葉遣いや選び方に気を付ける良い動機付けになった。ただ、当初新聞投稿を目指していたが諸事情により断念せざるを得なくなり、その点は大変残念であった。新聞投稿以外の発表の場についてもっと教員側が事前に調べておくことは非常に重要であるということがよく分かった。次回は考慮したい。			
アドバイス 及び 留意点	新聞投稿、又はそれ以外の発表の場を事前に調べておくことや生徒に周知しておくことが必要だった。学校として行う際には予算や時期等の都合もあるので、その点にも留意しておくことが重要であると思われる。また、付箋の使用方法については、今回は色の統一ができなかったが、できれば2つ程度の観点で、付箋の色を区別して生徒に持たせ、コメントを書かせるというのも、健全な批判力を養い、自分の発言に責任をもつ良い訓練になるのではないかなと思われる。			
小中学校との系統性	中学校2年生の教科書に、今回の「とんかつ」と同じ作者の作品で「盆土産」という小説作品が掲載されている。こちらの作品も食事を軸に家族のやりとりを描いており、登場人物が特徴的な方言を用いていることから生徒の記憶には残っている可能性が高い。授業の導入としてはぜひ用いたい。また、中学校3年生の教科書に掲載されている「握手」という作品も、同様に食事の場面が印象的な小説作品として生徒の記憶にはよく残っているようである。類似作品として比較させることも大変興味深い。			

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1 2 3	○小説「とんかつ」を読解し、作品の中で食事がどのような意味をもつかを知ることができる。	・本文の読解を通して、食事と家族のつながりがどのように描写されているのかを、本文の表現に即して正しく理解させるようにする。 *留意点 ・作品の特徴である方言や、仏教用語等、生徒に伝わりづらい点は丁寧に説明する。	・表現に即したな読解をすることができ、作品のテーマと自己を照らし合わせることができる。 【Cア・知】	自分のこれまでの食事に関わる思い出や、家族との思い出はないかを尋ね、作品の登場人物と共感できる部分を探させる。
4	○自分が表現したい食事を決定し、800字程度で作品を書く。	・自分が表現したい思いを決定し、800字程度でまとめられるようにワークシートを活用する。【Cイ】 ・どのような表現であれば短い文章でも相手に気持ちを伝えることができるかを考える。 *留意点 ・表現したい感情を明確にして書くよう注意する。 ・自他を傷つけるような表現や、誤解を招くような表現は避けるよう注意する。	・自分の表現したい感情に合うような適切な表現を考えることができる。 【Cウ・読】 ・読者に誤解がない表現になっているかを振り返ることができる。	自分の思いを適切に表現できているかを、類似の慣用句等を用いて比較させ、確認させる。
5	○作品を発表し合い、優れた表現を学び合うことができる。 【本時】	・自他の作品を見比べて、自分にはない優れた表現を他者から学ぶことができる。 *留意点 ・他人の作品からよりよいところを吸収で	自他の作品を見比べて優れた表現を知り、自分の作品を再度見直すことができる。 【Cエ・読】	自分の作品を再度よく見直して、どのような感情を表現したかったかを再確認させ、類似の他者の作品を提示して違いを比べるよう促す。

		きるように、自他の作品をよく見比べるように注意する。	
--	--	----------------------------	--

6 本時の学習指導案

本時の位置	5時間目 (全5時間)		
本時の学習目標	ア 自他の作品を比べることで優れた表現を知ることができる。(知識・理解) イ 自分の思いを表現することの楽しさを感じようとする。(関心・意欲・態度)		
事前の準備	① 付箋を準備し、生徒に事前に配っておく。 ② 作品は完成させてあるかを確認する。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□これまでの授業内容を振り返る。	①近くの席の生徒と、今回の小説でとんかつが重要な意味をもつことを再確認し、それをもとに書いた作品が完成しているか確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 作品の中で、「とんかつ」が須貝親子にとってどのような存在なのかを確認する。 食べることや生きること、思い出との密接な関係を考えさせる。 他者の作品の中からもその思いを読み取るよう促す。
展開 35分	<input type="checkbox"/> 自分の作品と他者の作品を見比べる。 <input type="checkbox"/> 他者の作品で優れた表現を発見した際には、メモを残し、自分の作品のための参考とする。 <input type="checkbox"/> 他者の作品を読んで、付箋にコメントを書いて貼る。 <input type="checkbox"/> 自分自身の作品を推敲する。 <input type="checkbox"/> 近くの席の生徒と、どのように推敲しなおしたかを交流する。	②後で自分の作品を推敲しなおすために、自他の作品を見比べる。 ③自分の作品をより良くするために他者の優れた表現を見つけ、メモを残す。 ④付箋のコメントは、「良いと思ったところ、自分の作品に取り入れたいと思ったところ」「改善するとより良くなると思うところ」の2つの観点から書く。 ⑤近くの席の生徒と自分が感じた良い表現を交流しあい、自分の作品をどのように変更させたかを伝える。聞いている側もさらにアドバイスを加える。	<ul style="list-style-type: none"> 後に作品の推敲のための時間を取ることを先に伝えておく。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標 ア に対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 他者の作品の中で優れた表現を見つけ、メモに残すことができる。</p> <p>[方法] 机間指導をし、なぜその部分をメモしたのかを尋ねる。</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> まずは第一印象で良いと感じたものを選択させ、写真と文章とを交互に見比べるように促し、優れた表現を探させる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 批判が目的ではなく、優れた表現を学び合うためのものであることを強調する。 自分が最初に作ったものを全て変えてしまうのではなく、あくまでも推敲であることに注意するよう促す。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標 イ に対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 近くの席の生徒に、自分が感じたことを積極的に発表することができる。</p> <p>[方法] 机間指導</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の表現と比べた作品はどれかを確認し、なぜその作品と比べたのかを尋ね、どのように感じたのかを確認する。 </div>
まとめ 10分	<input type="checkbox"/> 今回の授業の感想を答える。 <input type="checkbox"/> 作品を回収する。 <input type="checkbox"/> 次時の連絡を開く。	⑥流した際にどのように感じたのかを数人の生徒に教師が指名して答えさせ、全体に広げる。 ⑦次時の連絡を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを表現する際に必要な、適切な言葉遣いを学んでほしいという教科担任の思いを伝える。 コミュニケーションの絶対の原則は双方向であることを確認し、情報を送受信する際の「過不足なく、誤解のない」送受信方法を身に付けていくことが重要であると伝える。